

むら いし 村石あつし 富山市議会活動報告



2012年1月・2月

No. 10

発行責任者
富山市議会社民党議員会
村石あつし

11月17日 「風レンズ風車発電実験」
視察:九州大学伊都キャンパス



11月17日 水素ステーションと水素自動車視察:
九州大学伊都キャンパス

- ※ 1 風力発電によって安定した発電量を得るためには、弱い風でも高出力が見込める風力発電システムが必要となります。そこで開発されたのが「つば付きディフューザ風車」、通称「風レンズ風車」です。
- ※ 2 九州大学水素ステーションは、水電解方式の水素ステーションです。今後、この水素ステーションを活用して、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーとのマッチングを目指した研究を開拓しています。



12月9日 本会議で一般質問

皆さまへの ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます

私は2009年(平成21年)4月、多くの皆さまのご支援とご協力を賜わり、市議会に送っていただきました。

これまで、皆さまからは、議員活動の心得などについて教えていただいたり、地域の実情や要望について詳しく説明いただいたりして、大変お世話になっていくことに、心からお礼申し上げます。

平成23年12月定例会では、皆さまからいただいた要望や意見に基づいて、調査と分析を行い、次の5項目について質問しました。

- ①. 原子力安全委員会は、原発事故に備えて防災対策を実施する新たな地域を設けるよう提案したことから、防災対策について、質問しました。(2頁)
- ②. 緊急雇用対策が平成23年度で廃止されることから、平成24年度の雇用対策と企業誘致について、質問しました。(3頁)
- ③. 高齢者や障害者にやさしいまちづくりと並行在来線の新駅設置について、質問しました。(4頁)

④. 食事のあり方が見直されている中、小中学生の食育と学校教育について、質問しました。

⑤. 厳しい農業経営への支援について、質問しました。

昨年12月16日、富山市長に提出した平成24年度予算編成に対する社民党議員会の要望書は、「働きたい人の雇用確保の施策を重点的に、市民の大きなニーズである子育て支援、医療、介護、福祉制度、そして公共交通と環境エネルギー重視のまちづくりを充実すること」など、90項目となりました。

皆さまの声に耳をかたむけ、皆さまの代弁者として、「いのちとくらしを大切に、活力ある富山市を」つくるために、これまでの活動を活かし誠心誠意努力する所存です。市民の皆さん、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私がこれまで要望し続けてきた子ども医療費助成の拡充について、森市長は12月定例会で、「見直しの時期に来ているとし、十分検討したい」と答弁しました。

いのちと生活を守る防災対策を

国の原子力安全委員会の作業部会は11月11日、原発事故に備えて防災対策を重点的に実施する区域を、現行の半径8～10キロメートル圏から約30キロメートル圏に拡大し、新たに50キロメートル圏の放射性ヨウ素防護地域(PPA)を設けるよう提案しました。安定ヨウ素剤の備蓄や避難計画など、新たな被ばく対策が求められることになります。富山市の西側は、志賀原発から約51キロメートルです。これらの状況を踏まえ、質問しました。

村石 ベラルーシ共和国の子どもたちの甲状腺がんの患者は、事故前の10年間には7人だったのが、 Chernobyl事故後10年間には424人と、約60倍に増えたと言われています。子どもの甲状腺に放射性ヨウ素131が蓄積されることを防止するために、富山市でも原発の事故後安定ヨウ素剤を服用できるよう、学校などに備蓄する必要があると考えますが、所見を伺います。

答弁 本市は、志賀原子力発電所までの距離が50キロメートル以上離れており、**安定ヨウ素剤の備蓄**につきましては、現時点では考えておりませんが、原子力安全委員会や事故調査・検証委員会、県防災会議の原子力災害対策部会で行われる今後の検討状況を注視してまいりたいと考えております。

村石 静岡県の浜岡原発から180キロメートル離れている長野県松本市の菅野昭(すげのやあきら)市長は、医師の経験を基に、学校給食の食材については、東日本産に限定して表面の放射線量を測定しています。富山市も独自に食材の表面の放射線量を測定し、安心と安全の学校給食の提供に努める必要があると考えますが、所見を伺います。



北日本新聞
二〇一一年一月八日

答弁 本市の学校給食では、①国が公表している食品中の放射性物質に関する検査結果を常時確認すること、②実際に使用する食材の産地と国の検査結果を照合すること、などの必要な対応を、富山市学校給食会と連携をはかりながら実施しております。市独自の学校給食の食材の放射線量を測定する考えは、持っていないところであります。

村石 志賀原発事故発生を想定して、富山市民の避難誘導や市外からの避難者の受入れについての訓練は、県・市町村協力して実施することが必要と考えますが、所見を伺います。

答弁 本市は、志賀原子力発電所から50キロメートル以上離れていることから、現時点では、市民に対する避難誘導は想定しておりません。しかしながら、今回の福島第1原子力発電所の事故では、実際に多くの方々が本市に避難されていることから、市外からの避難者の受入体制を整えることは必要だと考えております。

私の考え方と今後の課題

福島第1原子力発電所の事故では、原発から60キロメートル圏内の郡山市総合体育館が、原発から40キロメートル圏内の田村市総合体育館よりも、放射線量が10倍高かったと報告されています。50キロメートル以上離れているから、安全と決めつけるわけにはいきません。私は、**安定ヨウ素剤の備蓄や避難計画**など被ばく対策を、富山市は自主的に検討するよう求めていきます。

※半径30キロメートル圏内の氷見市は、事故の進展に応じて避難する「緊急防護措置区域(UPZ)」となります。

雇用対策と企業誘致について

雇用対策事業として実施されてきたふるさと雇用再生基金事業及び緊急雇用事業は、平成23年度で廃止されることとなっていますが、**重点分野雇用創造事業**については、平成24年度末まで事業期間が延長されます。この事業継続とこれまでの企業誘致の評価について、質問しました。

村石 重点分野雇用創造事業の配分残額を、平成24年度当初予算で全額計上することとなっていますが、市の残額の見通しをお聞かせください。

答弁 県から本市に内示された重点分野雇用創造事業の額は、7億7,510万円であり、配分残額につきましては、現時点で、3億5,100万円余りであり、平成24年度の雇用対策事業費となる見込みであります。

※重点分野雇用創造事業は、介護、医療、環境・エネルギー、観光などで、雇用機会を創造する事業です。

村石 育児等離職者再就職支援事業は、平成24年度も継続した事業とすることが必要と考えるが、所見を伺います。

答弁 依然として厳しい雇用情勢の中、長期の雇用につなげる事業であり、年々実績を挙げていることから、引き続き、事業を実施してまいりたいと考えております。

村石 平成22年度までの5年間で富山市商工業振興助成金の合計交付額は、28億8千万余りとなっています。これまでの助成金の費用対効果について、どのように評価しているのか、所見を伺います。

答弁 企業の立地件数は46件であり（うち、市外企業19件、41.3%）、雇用面

においては、新たに584人の雇用が生まれています。また、操業から5年間で助成金額以上の税収が見込まれることから、費用対効果の面からも効果があるものと考えております。

私の考え方と今後の課題

県が新たな総合計画策定のため行った県民ニーズ調査では、世界同時不況後の景気低迷から立ち直りが遅れている状況を反映し、1位は景気対策、2位は雇用確保が入りました。富山市としても、雇用確保と企業誘致に、これまで以上の施策が求められています。

平成23年度育児等離職者再就職支援事業の実施状況

① 合同企業面接会開催実績

開催日：平成23年8月11日(木)

開催場所：富山県県民共生センターサンフォルテ
2階ホール

参加企業	参加人数	理由
23社	34名(男:2名、女32名)	育児:22名、介護:11名 震災1名

② 受託企業・採用者数実績（平成23年11月7日現在）

受託企業数	採用者数	理由	採用率
11社	15名	育児:8名、介護:11名 震災:1名	44%

北日本新聞 2011年12月10日



村石篤氏
(社民)
粟島都市整備部長
アフリカ化の進展は。
や関係機関等と協議中だが、
測量等を終え、富山地方鉄道
の調査対象は県庁前停留場。
来年度の工事着手は難しい。
中村商工労働部長
市内電車既存停留場パリ
を挙げていることから、引き
続き事業を実施したい。
本年度
「育児等離職者
再就職支援事業は

安心と地域活性化のまちづくり

4人に1人が高齢者となっていることから「高齢者や障害者にやさしいまちづくり」と「呉羽地域のまちづくりの視点からの並行在来線の新駅設置」について、質問しました。

村石 市内電車既存停留所バリアフリー化の調査については、進捗状況はどのようにになっているのでしょうか。バリアフリー化の工事は平成24年度中に施工することが可能でしょうか。

答弁 富山県総合福祉社会館(サンシップ)に近接し、障害者の利用が多く見込まれる県庁前停留所を対象としており、現在、測量等の作業を終え、引き続き富山地方鉄道や関係機関と協議を進めているところあります。このような状況から、平成24年度の工事着手は難しいものと考えております。

村石 願海寺地区に新駅が設置された場合は、北に500メートル離れた富山国際大学附属高校の生徒が433人(在籍者数の利用者割合を66.7%として)利用すると推計できることから、並行在来線対策協議会において、市は願海寺地区などでの新駅設置について、まちづくりの視点からも提言してはどうでしょうか。

答弁 富山県では、平成23年度に改めて新駅設置の可能性調査を実施されておりますので、第三セクター会社



(最大の出資は県)が策定する経営計画の中で、十分検討いただくよう、「富山県並行在来線対策協議会」において提言してまいりたいと考えております。

私の考え方と今後の課題

新駅設置については「第三セクター会社が行うこと、駅周辺の整備については、自治体が行うこと」となっています。富山市は公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを進めていることから、願海寺地区(富山国際大学附属高校の生徒433人と富山国際大学吳羽キャンパスの学生・教職員合わせて約1,700人)の新駅設置について、経費負担の在り方を含め、県と具体化の検討を急ぐ必要があります。

村石のこの間の主な活動報告

10月3日	富山県市議会議員議員研修会
10月12日	全国市議会議長会研究フォーラム
10月17日	市政報告会
10月21日	地方自治研究集会
10月24日	地域医療政策セミナー
10月29日	犯罪の起きにくい社会をめざす住民大集会
11月4日	LRT(次世代型路面電車システム)都市サミット「富山2011」
11月5日	とやま芸術パーク祭り
11月10日	厚生委員会視察(富山太陽光発電所)
11月13日	秋の消防総合訓練
11月17日	自然エネルギーに関する視察(九州大学伊都キャンパス)
11月24日	12月定例会議案説明会
11月29日	市議会臨時議会
11月30日	富山市都市計画審議会
12月1日	12月定例会開会・本会議(提案理由説明ほか)
12月5日	議案調査日
12月6日	本会議(一般質問)
12月7日	本会議(一般質問)
12月8日	議案調査日
12月9日	本会議(一般質問)
12月12日	常任委員会(経済教育・建設)
12月13日	常任委員会(総務・厚生)
12月14日	常任委員会(経済教育・建設)
12月15日	常任委員会(総務・厚生)
12月16日	本会議(委員長報告・質疑・討論・採決ほか)
	市議会12月定例会閉会
	平成24年予算編成に対する要望書提出
	富山市都市計画審議会
12月27日	

12月定例会で可決された主な議案

【予算案件】

- ◇平成23年12月富山市一般会計補正予算
予算額 9億0753万5000円
(子宮頸がん等ワクチン接種業務委託料=1億8678万7000円など)
- ◇平成23年12月富山市特別会計補正予算(2会計)
予算額 2016万4000円
(介護保険事務処理システム事業費=246万円など)
- ◇平成23年12月富山市企業会計補正予算(2会計)
予算額 6081万5000円

【条例案件】

- ◇富山市・医師会急患センター条例の一部を改正する条例
※富山市・医師会急患センターは、富山市民病院の敷地内に新築され、10月2日から診療を開始しました。
- ◇富山市民病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例

皆さまの市政に対するご意見をお聞かせ下さい。

- 富山市議会社会民主党連絡先 〒930-8510
富山市新桜町7-38 電話(076)443-2153
- 自宅 〒930-0161 富山市東老田642
電話・FAX(076)436-5413
ホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~atushi/>
メールアドレス kb4tj2@bmra.biglobe.ne.jp

